くらし　家庭

中学生の自治会役員誕生

関心アリ!

横浜市の、とある自治会で市内最年少と思われる中学2年生の自治会役員が、活躍しているという。なぜ、役員に立候補したのか。理由を聞くため、会いに行った。（梶彩夏）

防犯パトロール　行事の準備・司会　「この街が大好き」続投意欲

「火のよーじん」。拍子木を打った後に、子どもたちの元気な声が響く。

昨年末の夜、横浜市内のマンション「ブリリアシティ横浜磯子」の敷地内で、同マンションの自治会役員ら15人が防犯パトロールをしていた。子どもらを率いていた役員の鈴木梨里子さん(14)は、「住民の人たちに安心してもらえたら」と笑顔を見せた。

鈴木さんが自治会に興味を持ったのは小学5年の時。夏祭りの出店を手伝った際、役員の大人が楽しそうで、やってみたくなったという。役員に年齢制限がないことを知り、「いつかは」と心に決めた。

中学校生活に慣れた2022年2月に立候補、5月に選任された。両親には「中学生として、勉強など、やるべきことが出来るのなら」と背中を押された。2期連続で自治会長を務める田形勇輔さん(42)は、「中学生の役員にどんな役割を与えたらいいか、最初は悩んだ」と明かす。

マンションの周りを防犯パトロールする自治会役員の鈴木さん（中央）。「街のことをもっと知りたい」（横浜市内で）＝武藤要撮影

13棟からなる大規模マンションに入居するのは約1230世帯。今年度の役員18人の中心は30～70代の男性だが、鈴木さんは役員会で、防災訓練や小学生の下校の見守りなどについて肩を並べて議論する。「大人の中で意見を言って良いのか迷ったけれど、みなさんが意見を聞いてくれたことで、物おじせずに発言できるようになりました」

友人からは、「おじさんと活動して大変じゃない？　本当に楽しい？」「役員会とか眠そう」などと言われるが、「学校にはない刺激がある」と意に介さない。コロナ禍で学校行事を体験出来なかった分、学ぶことは多い。

昨秋は、住民がダンスなどを披露する自治会主催の音楽イベントで、事前準備から当日の司会まで担った。参加者からお礼を言われ、やりがいを感じたという。

鈴木さんの姿に触発され、大学生や小学生の住民が次期役員を希望するなど、若い世代の参画も広がってきた。

田形さんは、「梨里ちゃんのおかげで子どもたちの行事参加率が高まるなど、大人にはできない役割があることを示してくれた。今や自治会の新たな顔です」と目を細める。

鈴木さんの任期は2年。任期満了後も役員を続投したいといい、「この街が大好き。この街にもっと愛着を持ってもらえるよう、今後も頑張る」と意気込んでいる。

◇

自治会役員は大人が担うものと思い込んでいただけに、鈴木さんの行動や考え方に感銘を受けた。若い世代が積極的に関わることで、地域に活力が生まれる。多様性のある自治会が、令和の社会に広がっていくことを期待したい。

加入率低迷、新しい形の模索

自治会は、一定の地区の住民で組織する任意団体だ。地域の防災や課題解決などを行う。地域によって「町内会」「区会」など名称は様々だ。

総務省によると2021年4月1日現在、全国に約29万団体ある。ただ、近年では加入率が低迷している。同省の調査によると、21年度の平均加入率は72％で、11年度から6％減少した。

自治会活動に詳しい地域活性化コンサルタントの水津陽子さんによると、団体の多くは昭和時代に設立されたという。連絡手段は電話、会議は平日の昼間に開催される場合もあり、いまだに設立当時と同じやり方を踏襲している団体も少なくない。また、近年ではこれまで活動を支えてきた退職者などが減少し、役員のなり手も不足しているという。

水津さんは「閉鎖的で硬直的な団体もある。そもそも若い世代には、何をやっている団体かよくわからず、嫌な役を押しつけられるという印象が強い」と指摘する。

ただ、地域に参加できる場や仲間がほしいと考える若い世代は少なくないという。自治会運営について水津さんは、「加入率が低下し、役員の担い手が不足する中では、活動のスリム化が必要」とし、「防災や祭りなど自治会の核となる活動を決める。その上で、一部の住民しか参加しない活動は有志が運営するなど、地域住民から必要とされる、新しい自治会の形を模索する時に来ているのではないか」と話す。

人生案内

貯金に執着 人生楽しくない

出久根　達郎（作家）

20代の会社員女性。交友関係も広く、結婚を視野に入れた彼もいます。ただ、何のために生きているのか、生きていて何が楽しいのか分かりません。

没頭できる趣味を見つけたいと、誘われて参加しても面白みを感じず、唯一あるのは貯金です。口座残高が毎月、目標額を超えていないと気が済みません。買いたいものより、貯金優先です。老後を考えて資産運用もしています。お金を使えば楽しいことがあるのかもしれませんが、それ以上にお金が減るのが心配で踏み出せません。

貯金に執着するのはお金の余裕が心の余裕だと思っているからです。小さい頃から不自由なく育てられ、今も実家暮らしですが、極度の心配性で、なぜか心に余裕がありません。

価値観や考え方を変えるために書籍を読んだり、様々な人に話を聞いたりしていますが、変えられません。このまま貯金だけで一生を終える気がして、むなしさを感じます。どうすれば余裕を持って、人生を心から楽しく過ごせるでしょうか。（東京・S子）

貯金ひと筋の現在にむなしさを覚えたという今こそ、自分を見つめ直すいい機会かもしれません。

あなたは苦労なしで育ったため、何が不幸であり、何が幸福かの判断が[illegible]

生きていて何が楽しいのか。彼の意見をうかがってみる。あなたも正直に自分の思いを語らねばいけません。お互いに本音を吐きだす、いい機会です。将来の[illegible]

中学生の自治会役員誕生

関心アリ!

横浜市の、とある自治会で市内最年少と思われる中学2年生の自治会役員が、活躍しているという。なぜ、役員に立候補したのか。理由を聞くため、会いに行った。

(梶彩夏)

防犯パトロール 行事の準備・司会 「この街が大好き」続投意欲

「火のよーじん」。拍子木を打った後に、子どもたちの元気な声が響く。

昨年末の夜、横浜市内のマンション「ブリリアシティ横浜磯子」の敷地内で、同マンションの自治会役員ら15人が防犯パトロールをしていた。子どもらを率いていた役員の鈴木梨里子さん(14)は、「住民の人たちに安心してもらえたら」と笑顔を見せた。

鈴木さんが自治会に興味を持ったのは小学5年の時。夏祭りの出店を手伝った際、役員の大人が楽しそうで、やってみたくなったという。役員に年齢制限がないことを知り、「いつかは」と心に決めた。

中学校生活に慣れた2022年2月に立候補、5月に選任された。両親には「中学生として、勉強など、やるべきことが出来るのなら」と背中を押された。2期連続で自治会長を務める田形勇輔さん(42)は、「中学生の役員にどんな役割を与えたらいいか、最初は悩んだ」と明かす。

マンションの周りを防犯パトロールする自治会役員の鈴木さん(中央)。「街のことをもっと知りたい」(横浜市内で)＝武藤要撮影

13棟からなる大規模マンションに入居するのは約1230世帯。今年度の役員18人の中心は30～70代の男性だが、鈴木さんは役員会で、防災訓練や小学生の下校の見守りなどについて肩を並べて議論する。「大人の中で意見を言って良いのか迷ったけれど、みなさんが意見を聞いてくれたことで、物おじせずに発言できるようになりました」

友人からは、「おじさんと活動して大変じゃない？ 本当に楽しい？」「役員会とか眠そう」などと言われるが、「学校にはない刺激がある」と意に介さない。コロナ禍で学校行事を体験出来なかった分、学ぶことは多い。

昨秋は、住民がダンスなどを披露する自治会主催の音楽イベントで、事前準備から当日の司会まで担った。参加者からお礼を言われ、やりがいを感じたという。

鈴木さんの姿に触発され、大学生や小学生の住民が次期役員を希望するなど、若い世代の参画も広がってきた。

田形さんは、「梨里ちゃんのおかげで子どもたちの行事参加率が高まるなど、大人にはできない役割があることを示してくれた。今や自治会の新たな顔です」と目を細める。

鈴木さんの任期は2年。任期満了後も役員を続投したいといい、「この街が大好き。この街にもっと愛着を持ってもらえるよう、今後も頑張る」と意気込んでいる。

◇

自治会役員は大人が担うものと思い込んでいただけに、鈴木さんの行動や考え方に感銘を受けた。若い世代が積極的に関わることで、地域に活力が生まれる。多様性のある自治会が、令和の社会に広がっていくことを期待したい。

くらし 家庭

加入率低迷、新しい形の模索

自治会は、一定の地区の住民で組織する任意団体だ。地域の防災や課題解決などを行う。地域によって「町内会」「区会」など名称は様々だ。

総務省によると2021年4月1日現在、全国に約29万団体ある。ただ、近年では加入率が低迷している。同省の調査によると、21年度の平均加入率は72%で、11年度から6%減少した。

自治会活動に詳しい地域活性化コンサルタントの水津陽子さんによると、団体の多くは昭和時代に設立されたという。連絡手段は電話、会議は平日の昼間に開催される場合もあり、いまだに設立当時と同じやり方を踏襲している団体も少なくない。また、近年ではこれまで活動を支えてきた退職者などが減少し、役員のなり手も不足しているという。

水津さんは「閉鎖的で硬直的な団体もある。そもそも若い世代には、何をやっている団体かよくわからず、嫌な役を押しつけられるという印象が強い」と指摘する。

ただ、地域に参加できる場や仲間がほしいと考える若い世代は少なくないという。自治会運営について水津さんは、「加入率が低下し、役員の担い手が不足する中では、活動のスリム化が必要」とし、「防災や祭りなど自治会の核となる活動を決める。その上で、一部の住民しか参加しない活動は有志が運営するなど、地域住民から必要とされる、新しい自治会の形を模索する時に来ているのではないか」と話す。

人生案内

貯金に執着 人生楽しくない

出久根　達郎(作家)

20代の会社員女性。交友関係も広く、結婚を視野に入れた彼もいます。ただ、何のために生きているのか、生きていて何が楽しいのか分かりません。

没頭できる趣味を見つけたいと、誘われて参加しても面白みを感じず、唯一あるのは貯金です。口座残高が毎月、目標額を超えていないと気が済みません。買いたいものより、貯金優先です。老後を考えて資産運用もしています。お金を使えば楽しいことがあるのかもしれませんが、それ以上にお金が減るのが心配で踏み出せません。

貯金に執着するのはお金の余裕が心の余裕だと思っているからです。小さい頃から不自由なく育てられ、今も実家暮らしですが、極度の心配性で、なぜか心に余裕がありません。

価値観や考え方を変えるために書籍を読んだり、様々な人に話を聞いたりしていますが、変えられません。このまま貯金だけで一生を終える気がして、むなしさを感じます。どうすれば余裕を持って、人生を心から楽しく過ごせるでしょうか。

(東京・S子)

貯金ひと筋の現在にむなしさを覚えたという今こそ、自分を見つめ直すいい機会かもしれません。

あなたは苦労なしで育ったため、何が不幸であり、何が幸福なのかを知らないのです。

生きていて何が楽しいのか。彼の意見をうかがってみる。あなたも正直に自分の思いを語らねばいけません。お互いに本音を吐きだす、いい機会です。将来の